

乳幼児の問題行動に関する調査

研究第5部

望 月 武 子
丸 尾 あ き 子

I 目 的

子どもの正常な発達過程において現われ、親を困らせる行動について取りあげ、1) 各年齢段階でどのような行動がどの程度の割合で出現するか、2) そうして、その行動について親がどの程度の心配をしているか、3)

それらの問題行動や心配は発達に伴ない、いかなる消長を示していくか、4) また、性差の認められる行動や心配があるかどうかを検討し、実態を把握して指導上の基礎的な資料を得ることを目的とした。

II 方 法

対象は、愛育病院で出産し、保健指導部で継続的に指導を受けている、0才から4才までの幼児の中から月齢に偏りのないように配慮して抽出した945名と、都内8か所の保育園に在園する0才から4才の幼児380名を対象として質問紙を配布し、母親に記入を求めた。回答数は第1表の通りである。

質問紙は、睡眠・食事・排泄・清潔・習癖・神経質・性格・交友・生活態度に及ぶ、相談場面で訴えの多い行動69項目について、その行動の出現状態と、その行動に対する親の心配の程度をそれぞれ三段階に評定して記入するようにした。

第1表 対 象

年 齢	男	女	計
0 才	45	52	97
1 才	94	67	161
2 才	99	106	205
3 才	89	85	174
4 才	104	111	215
合 計	431	421	852

III 結 果

1. 問題行動について

各年齢段階で比較的出现率の高い行動（「度々みられる」、「時々みられる」を含めて40%以上の出現率のものを表示した）をあげると以下のようである。

1) 0才児

0才児の問題行動とその出現率をみると、他の年齢に比し出現する種類は極めて少ない。第2表に示したようにこの年齢に最も多くみられるものは「何でも口に入れる」「指をしゃぶる」「大きな物音に驚きやすい」があり、ついで「ねつきが悪い」「人みしりする」「ねむりが浅い」がある。このほか度々みられる段階で頻度の高いものに「食事を一人でしない」「顔洗い髪洗いをいやがる」がある。

2) 1才児

1才児になると問題行動の種類が著しく増加してく

第2表 出現率の高い問題行動（0才児）

問 題 内 容	%		
	度々みられる	時々みられる	みられぬ
何でも口に入れる	54.6	19.6	25.8
指をしゃぶる	44.3	33.0	22.7
大きな物音に驚きやすい	19.6	51.5	28.9
ねつきが悪い	11.3	48.5	40.2
人みしりする	6.2	35.1	58.7
ねむりが浅い	4.1	40.2	55.7

る。第3表に示したように、この年齢に最も多くみられるものは「排泄のしつけがうまくできない」「食事を一人

第3表 出現率の高い問題行動(1才児)

問題内容	%		
	度々みられる	時々みられる	みられぬ
排泄のしつけがうまくできない	39.8	22.4	37.8
食事を一人でしない	32.9	20.5	46.6
床屋をいやがる	29.8	15.5	54.6
便器(所)をいやがる	27.3	19.9	52.8
顔洗い・髪洗いをいやがる	26.1	37.9	36.0
いたずらが激しい	22.4	32.3	45.3
何でも口に入れる	21.7	33.5	44.7
一人でねない	18.6	28.6	52.8
添いねをする	18.6	26.7	54.7
甘える	18.0	53.4	28.6
遊びながら食べる	15.5	48.4	36.0
人のものをほしがる	13.7	42.2	44.1
わがまま	13.7	41.0	45.3
かんしゃくをおこしやすい	11.8	52.8	35.4
人みしりする	10.6	39.8	49.6
ねつきが悪い	10.6	36.0	53.4
ねむりが浅い	9.3	31.1	59.6
夜泣きする	8.1	36.6	55.3
いうことをきかない	6.8	45.3	47.8

でしない」「床屋をいやがる」「便器(所)をいやがる」「顔洗い髪洗いをいやがる」「いたずらが激しい」「何でも口に入れる」などがある。このほか度々みられる段階で頻度の高いものに「特定の毛布タオルなどをもって離さない」「指をしゃぶる」「おもらしをする」がある。

1才児に特徴的に現われるものとしては「夜泣きする」「排泄のしつけがうまくいかない」「便器(所)をいやがる」がある。

3). 2才児

2才児では第4表に示したように問題行動の種類は広範囲に及んで増加し最も多くみられるものに「一人でねない」「よごれを気にする」「顔洗い髪洗いをいやがる」「強情をはる」「甘える」などがある。このほか度々みられる段階で頻度の高いものに「床屋をいやがる」「特定の毛布タオルなどをもって離さない」「指をしゃぶる」「添いねをする」がある。

2才児に特徴的に現われるものに「おもらし」がある。

第4表 出現率の高い問題行動(2才児)

問題内容	%		
	度々みられる	時々みられる	みられぬ
一人でねない	19.0	22.9	58.0
よごれを気にする	16.6	51.2	32.2
顔洗い・髪洗いをいやがる	16.1	36.6	47.3
強情をはる	14.1	61.0	24.9
甘える	13.2	71.7	15.1
わがまま	11.7	56.6	31.7
遊びながら食べる	11.2	56.2	32.7
かんしゃくをおこしやすい	10.7	47.3	42.0
やりっぱなしで片づけができない	10.7	46.3	42.9
ねつきが悪い	10.7	32.7	56.6
母にくっついて離れない	10.2	33.2	56.6
人のものをほしがる	9.3	59.5	31.2
泣きやすい	9.3	40.0	50.7
新しい場になれにくい	9.3	31.2	59.5
いうことをきかない	8.8	64.4	26.8
偏食がある	8.8	40.5	50.7
いたずらが激しい	8.8	36.6	54.6
恐怖心がつよい	8.8	35.1	56.1
人に物を貸せない	7.8	52.7	39.5
不規則に間食する	7.8	42.4	49.8
おもらしをする	6.8	43.9	49.3
食事を一人でしない	6.3	39.5	54.1

4) 3才児

3才児では第5表に示したように最も多くみられるものに「きょうだいげんかが多い」「やりっぱなしで片づけができない」「よごれを気にする」「偏食がある」「強情をはる」「甘える」「わがまま」「恐怖心がつよい」などがある。このほか度々みられる段階で頻度の高いものに2才児と同様に「特定の毛布タオルなどをもって離さない」「指をしゃぶる」がある。

3才児に特徴的に現われるものとしては「やりっぱなしで片づけができない」「友だちをいじめたりけんかをする」がある。

5) 4才児

4才児では第6表に示したように概して行動の種類も

第5表 出現率の高い問題行動（3才児）

問題内容	%		
	度々みられる	時々みられる	みられぬ
きょうだいげんかが多い	20.1	34.0	45.9
やりっぱなしで片づけができない	18.9	58.5	22.4
よごれを気にする	17.2	50.5	32.2
偏食がある	15.5	39.7	44.9
強情をはる	13.8	61.5	24.6
甘える	13.2	74.1	12.6
わがまま	13.2	61.0	25.8
恐怖心がつよい	13.2	38.3	53.4
遊びながら食べる	11.5	48.9	40.8
いうことをきかない	10.3	66.1	23.6
かんしゃくをおこしやすい	10.3	51.1	38.5
いたずらが激しい	10.3	35.0	54.6
食欲不振	9.8	37.4	52.9
泣きやすい	8.0	40.1	51.8
新しい場になれにくい	8.0	32.2	59.8
食事を一人でしない	6.9	36.2	56.9
人のものをほしがる	6.3	65.5	28.1
不規則に間食する	5.8	46.5	47.7
人に物を貸せない	5.7	54.5	39.6
顔洗い・髪洗いをいやがる	5.2	40.1	54.5
乱暴をする	4.0	37.9	58.1
依頼心がつよい	2.3	45.4	52.2
友だちをいじめたりけんかする	1.7	41.3	56.9

第6表 出現率の高い問題行動（4才児）

問題内容	%		
	度々みられる	時々みられる	みられぬ
よごれを気にする	14.9	48.4	36.7
偏食がある	14.0	41.9	44.2
きょうだいげんかが多い	13.4	52.2	34.4
強情をはる	13.0	59.5	27.4
わがまま	13.0	53.7	33.3
内弁慶	12.1	33.5	54.4
いうことをきかない	11.2	59.1	29.8
動作がのろい	11.2	29.8	59.1
やりっぱなしで片づけができない	10.7	51.2	38.1
甘える	10.2	66.5	23.3
食欲不振	10.2	31.2	58.6
遊びながら食べる	9.8	40.9	49.3
泣きやすい	8.8	36.3	54.9
おちつきがない	8.8	34.9	56.3
かんしゃくをおこしやすい	8.4	47.9	43.7
いたずらが激しい	7.4	37.7	54.9
人のものをほしがる	7.0	38.1	54.9
不規則に間食する	7.0	37.7	55.3

第7表 出現率の多い心配（0才児）

心配内容	%		
	非常に心配	少し心配	心配しない
何でも口に入れる	5.1	26.8	71.1
大きな物音に驚きやすい	3.1	15.5	81.4
乳(食物)を吐きやすい	3.1	14.4	82.5
夜泣きする	1.0	15.5	83.5

出現率も減少の傾向をみせるが、この年齢で最も多くみられるものに「よごれを気にする」「偏食がある」「きょうだいげんかが多い」「強情をはる」「わがまま」などがあり、この他「内弁慶」「動作がのろい」など、集団生活の中での行動がやや増加の傾向をみせて、この年齢の特徴的問題といえる。

2. 心配について

心配の割合は当然のことながら問題行動の出現とかなり深い関係がある。各年齢の子どもについて、非常に心配、少し心配、という項目で15%以上心配される内容を見ると次のようである。

1) 0才児

0才児では問題行動の出現が少なく、当然心配されるものも少ない。第7表に示したように行動で出現の高い、「何でも口に入れる」が最も心配され、次いで「大きな物音に驚きやすい」がある。また行動の出現が多くなっても心配されるものに「乳(食物)を吐きやすい」「夜泣きする」があり、このほか非常に心配の段階で頻度の高いものに「指をしゃぶる」「かんしゃくをおこしやすい」がある。

第8表 出場率の多い心配(1才児)

心配内容	%		
	非常に心配	少し心配	心配しない
排泄のしつけがうまくできない	6.8	32.3	60.9
偏食がある	5.0	24.2	70.8
便器(所)をいやがる	5.0	14.9	80.1
指をしゃぶる	4.3	14.9	80.7
母にくっついて離れない	4.3	14.9	80.7
食欲不振	4.3	14.3	81.4
わがまま	3.7	25.5	70.8
一人でねない	3.7	19.9	76.4
遊びながら食べる	3.1	25.5	71.4
何でも口に入れる	2.5	19.3	78.2
夜泣きする	2.5	17.4	80.1
いうことをきかない	2.5	14.3	83.2
泣きやすい	2.5	13.6	83.9
添いねをする	1.9	18.6	79.5
ねむりが浅い	1.9	14.3	83.8
不規則に間食する	1.2	24.2	74.5
かんしゃくをおこしやすい	0.6	31.1	68.3

2) 1才児

1才児になると問題行動の増加にともない心配されることも広範囲に及ぶようになる。第8表に示したように最も心配されるものは行動出現の多かった「排泄のしつけがうまくできない」「便器(所)をいやがる」がある。このほか行動はそれほどでなくても心配されるものに、「偏食がある」「食欲不振」など食事に関する心配があげられ、「指をしゃぶる」「母にくっついて離れない」などもみられる。

3) 2才児

2才児の心配は第9表に示したように心配される内容も割合も増加し最も心配されるものに、行動の出現の多かった「指をしゃぶる」があり、次いで「わがまま」「強情をはる」「かんしゃくをおこしやすい」など反抗期の行動に関するものがある。また行動の出現率は比較的高くなかった「食欲不振」「偏食がある」など食事に関する心配も多く「排泄のしつけがうまくできない」が依然としてみられる一方「人に物を貸せない」「人のものをほしがる」などに対する心配もみられます。このほか「非常に心配」の

第9表 出現率の多い心配(2才児)

心配内容	%		
	非常に心配	少し心配	心配しない
指をしゃぶる	8.3	8.3	83.4
わがまま	6.8	27.8	65.4
強情をはる	6.3	22.9	70.7
かんしゃくをおこしやすい	6.3	21.5	72.2
食欲不振	5.4	20.5	74.1
泣きやすい	5.4	16.1	78.5
偏食がある	4.4	23.4	72.2
夜尿がある	4.4	15.6	80.0
人に物を貸せない	3.9	16.6	79.5
新しい場になれにくい	3.9	13.7	82.4
いうことをきかない	3.4	22.0	74.6
乱暴をする	3.4	14.1	82.4
排泄のしつけがうまくできない	2.9	15.6	81.5
人のものをほしがる	2.9	15.1	82.0
遊びながら食べる	2.4	19.5	78.0
甘える	2.4	15.1	82.5
母にくっついて離れない	2.0	16.1	81.9
不規則に間食する	2.0	15.6	82.4
一人でねない	1.5	14.6	83.9
やりっぱなしで片づけができない	1.0	15.6	83.4
添いねをする	0.5	15.1	84.4
食事を一人でしない	0.5	14.6	84.9

段階で頻度の高いものに「特定の毛布タオルなどをもって離さない」「いたずらが激しい」「引込思案」「内弁慶」がある。

4) 3才児

3才児では第10表に示したように心配される内容は各年齢を通じて最も広範囲に及び一番心配の多い時期である。問題行動として比較的出现の少なかった「おちつきがない」が最も心配されている。次いで行動の出現が多い「わがまま」「強情をはる」「かんしゃくをおこしやすい」「いうことをきかない」など反抗期の行動がそのまま心配されている。また「指をしゃぶる」は行動としては減少するにもかかわらず心配するものは増加している。「食欲不振」「偏食がある」など食事に関する心配や「人

第10表 出現率の多い心配(3才児)

心 配 内 容	%		
	非常に心配	少し心配	心配しない
おちつきがない	9.2	21.3	69.5
わがまま	8.6	35.1	56.3
強情をはる	7.5	27.0	65.5
かんしゃくをおこしやすい	6.3	27.6	66.1
いうことをきかない	6.3	25.9	67.8
指をしゃぶる	5.8	16.7	77.6
やりっぱなしで片づけができない	5.2	31.6	63.2
食欲不振	5.2	28.2	66.7
偏食がある	4.6	31.6	63.8
新しい場になれにくい	4.6	17.2	78.2
内 弁 慶	4.0	15.5	80.5
夜尿がある	4.0	13.8	82.2
遊びながら食べる	3.5	24.1	72.4
引込思案	3.5	16.7	79.9
食事を一人でしない	2.9	18.4	78.7
恐怖心がつよい	2.9	17.8	79.3
乱暴をする	2.9	17.2	79.9
いたずらが激しい	2.9	12.1	85.1
泣きやすい	2.3	22.4	75.3
不規則に間食する	1.7	23.6	74.7
人のものをほしがる	1.7	23.6	74.7
依頼心がつよい	1.7	22.4	75.9
甘 える	1.7	20.1	78.2
人に物を貸せない	1.7	15.5	82.8
友だちをいじめたりけんかをする	0.6	14.4	85.1

第11表 出現率の多い心配(4才児)

心 配 内 容	%		
	非常に心配	少し心配	心配しない
偏食がある	8.4	30.6	61.0
依頼心がつよい	7.4	19.1	73.5
おちつきがない	7.4	16.7	75.8
わがまま	6.5	35.4	58.1
食欲不振	6.5	21.4	72.1
動作がのろい	5.6	14.4	80.0
かんしゃくをおこしやすい	5.1	23.3	71.6
いうことをきかない	4.7	24.7	70.7
よごれを気にする	4.7	18.1	77.2
強情をはる	4.2	26.5	69.3
やりっぱなしで片づけができない	4.2	25.6	70.2
内 弁 慶	4.2	19.5	76.3
遊びながら食べる	3.7	22.8	73.6
引込思案	3.7	21.4	74.9
恐怖心がつよい	2.8	14.4	82.8
泣きやすい	2.3	20.0	77.7
人のものをほしがる	2.3	16.3	81.4
不規則に間食する	1.9	20.0	78.1
新しい場になれにくい	1.9	17.2	80.9
人に物を貸せない	1.9	14.9	83.3

のものをほしがる」など交友に関する心配「依頼心がつよい」など自立に関する心配も多いようである。このほか「非常に心配」の段階で頻度の高いものに「左利き」「集団になじめない」「吃音」「発音がうまくできない」がある。また行動の出現が多かったのにもかかわらず「きょうだいげんかが多い」「よごれを気にする」は心配になることは少ないようである。

5) 4才児

4才児では第11表に示したように問題行動は種類も出

現率も減少の傾向をみせたが心配においてはあまり変化はみられない。この年齢で一番心配されるものに「偏食がある」がみられる。また「依頼心がつよい」「おちつきがない」「動作がのろい」など集団生活へ参加しての心配が多い。このほか「非常に心配」の段階で頻度の高いものに「夜尿がある」「指をしゃぶる」「左利き」「発達のおくれ」がある。

3. 問題行動の発達の考察

1) 発達に伴って減少していく行動

発達に伴って減少する傾向を示す行動として第12表にあげたようなものがある。このうち「ねつきが悪い」「ねむりが浅い」「指をしゃぶる」「何でも口に入れる」「大きな物音に驚きやすい」は0才児に多く、次第に減少しており、「一人でねない」「添いねをする」「顔洗い・髪洗いをいやがる」「床屋をいやがる」「特定の毛布タオ

第12表 発達に伴って減少していく行動

行 動 内 容	頻 度	0 才	1 才	2 才	3 才	4 才
ね っ き が 悪 い	度々みられる	11.3%	10.6%	10.7%	10.3%	8.4%
	時々みられる	48.5	36.0	32.7	27.6	24.2
一 人 で ね な い	度々	2.1	18.6	19.0	10.9	7.0
	時々	12.4	28.6	22.9	27.6	18.6
派 い ね を す る	度々	3.1	18.6	14.6	8.6	7.9
	時々	13.4	26.7	23.4	24.8	11.6
顔 洗 い ・ 髪 洗 い を い や が る	度々	16.5	26.1	16.1	5.2	8.8
	時々	17.5	37.9	36.6	40.1	27.4
床 屋 を い や が る	度々	5.2	29.8	20.5	8.6	5.6
	時々	1.0	15.5	14.6	17.2	11.6
ね む り が 浅 い	度々	4.1	9.3	5.4	2.9	2.8
	時々	40.2	31.1	14.1	20.6	7.0
指 を し ゃ ぶ る	度々	44.3	21.1	18.0	16.1	8.4
	時々	33.0	17.4	11.2	15.5	13.5
何 で も 口 に 入 れ る	度々	54.6	21.7	2.4	1.7	1.4
	時々	19.6	33.5	10.7	18.4	8.4
大 き な 物 音 に 驚 き や す い	度々	19.6	8.1	4.9	3.5	2.7
	時々	51.5	43.5	32.7	27.6	21.4
夜 泣 き す る	度々	6.2	8.1	2.4	2.3	1.9
	時々	25.8	36.6	22.4	12.1	5.6
人 み し り を す る	度々	6.2	10.6	4.9	3.4	2.3
	時々	35.1	39.8	28.8	22.4	18.6
特 定 の 毛 布 タ オ ル な ど を も っ て 離 さ ない	度々	3.1	22.4	18.5	16.7	13.5
	時々	6.2	10.5	11.7	11.5	10.7

ルなどを持って離さない」は1才児に最も多いが、以後発達にしたがって減少している。

したがって、これらの行動は乳児期及び幼児期の初期に現われる発達の問題としてみることが出来る。しかし、「ねつきが悪い」の項目にみられるようにその行動がたびたびみられるものの割合は各年齢を通じて変化がみられず、この行動の顕著なものは発達以外に子どもの傾向、その他の因子の存在が考えられる場合もある。

2) 増加する行動

発達にしたがって次第に増加の傾向を示す行動は第13表に示したようである。1才から急激に行動が目立ちはじめ発達につれて増加していくものに「食欲不振」「偏食」「引込思案」「内弁慶」「きょうだいげんかが多い」「仲間はすれになる」「友だちのいいなりになる」「おちつきがない」「動作がのろい」があり、1才から同じく増加し3才でピークに達するものに「乱暴をする」「わがまま」「いうことをきかない」「強情をはる」「甘える」「恐怖心がつよい」「依頼心がつよい」がある。

3) 発達と関係の少ない行動

ここでとりあげた問題行動は、一般に発達に伴って消長がみられるが、変化の少ない行動として第14表に示したようなものがある。このうち「ミルクを飲まない」

「乳(食物)を吐きやすい」は0才に「かんしゃくをおこしやすい」は1才に比較的多い問題ではあるが「泣きやすい」「不規則に間食する」「新しい場になれにくい」「友だちと遊べない」などととも、家庭での扱いや子どもの特性など発達以外の要因が考えられる場合が多い。

4. 問題行動と心配との関係

すべての年齢段階を通じて非常に心配になると答えたものの多い行動は第15表に示した通りである。

個々の行動について心配するものの割合は問題行動の出現率と密接な関係をもっている。すなわち、発達に伴って問題行動が減少すれば心配も減少し、問題行動が増加すれば心配も増加する傾向を示している。

しかし、「食事を一人でしない」「指をしゃぶる」「特定の毛布タオルなどをもって離さない」「人みしりをする」などは発達にしたがって行動は減少するが、心配するものの割合は逆に増加する傾向をみせている。

問題行動の出現が多くても心配するものの割合が低いものとしては「ねつきが悪い」「一人でねない」「よごれを気にする」「顔洗い・髪洗いをいやがる」「床屋をいやがる」「大きな物音に驚きやすい」「甘える」など発達にしたがって行動の減少する傾向にあるものがあげられる。

逆に、行動の出現に比較して心配するものの割合が多

望月他：乳幼児の問題行動に関する調査

第13表 増加する行動

行 動 内 容	頻 度	0 才	1 才	2 才	3 才	4 才
食 欲 不 振	度々みられる 時々みられる	1.0% 12.4	4.3% 33.5	4.9% 31.7	9.8% 37.4	10.2% 31.2
偏 食 が あ る	度々 時々	1.0 13.4	9.3 32.3	8.8 40.5	15.5 39.7	14.0 41.9
引 込 思 案	度々 時々	1.0 11.8	3.1 20.0	2.4 30.4	2.9 31.6	7.0 31.6
内 弁 慶	度々 時々	1.0 2.1	6.2 13.0	11.2 21.4	6.3 32.2	12.1 33.5
きょうだいげんかが多い	度々 時々	1.0 8.7	4.3 20.5	6.8 34.0	20.1 52.2	13.4 52.2
仲 間 は ず れ に な る	度々 時々		0.6 0.6	0.5 7.3	1.2 10.9	20.0
友だちのいいなりになる	度々 時々		0.6 4.3	2.4 10.7	2.8 14.4	1.9 20.9
お ち つ き が な い	度々 時々	1.0 6.8	6.8 25.9	4.3 28.2	11.5 34.9	8.8 34.9
動 作 が の ろ い	度々 時々	1.0 1.9	0.6 12.2	2.0 32.1	5.2 29.8	11.2 29.8
乱 暴 を す る	度々 時々	7.2 30.4	4.3 34.1	3.9 37.9	4.0 30.7	2.8 30.7
わ が ま ま	度々 時々	12.4 41.0	13.7 56.6	11.7 61.0	13.2 53.7	13.0 53.7
い う こ と を き か な い	度々 時々	7.2 45.3	6.8 64.4	8.8 66.1	10.3 59.1	11.2 59.1
強 情 を は る	度々 時々	4.1 39.1	9.9 61.0	14.1 61.5	13.8 59.5	13.0 59.5
甘 え る	度々 時々	2.1 16.5	18.0 53.4	13.2 71.7	13.2 74.1	10.2 66.5
恐 怖 心 が つ よ い	度々 時々	3.1 9.3	3.7 17.3	8.8 35.1	13.2 33.3	7.4 32.1
依 頼 心 が つ よ い	度々 時々	1.0 4.1	3.7 13.0	4.4 27.8	2.3 45.4	9.3 30.2

第14表 変化のない行動

行 動 内 容	頻 度	0 才	1 才	2 才	3 才	4 才
ミ ル ク を 飲 ま な い	度々みられる 時々みられる	5.2% 20.6	1.2% 9.3	3.9% 7.8	5.2% 9.2	3.7% 10.2
乳(食物)を吐きやすい	度々 時々	5.2 26.8	2.5 13.7	1.0 11.2	1.7 12.6	1.9 12.1
かんしゃくをおこしやすい	度々 時々	4.1 20.6	11.8 52.8	10.7 47.3	10.3 51.1	8.4 47.9
泣 き や す い	度々 時々	2.1 17.5	13.0 32.9	9.3 40.0	8.0 40.1	8.8 36.3
不 規 則 に 間 食 す る	度々 時々	8.2 39.1	6.8 42.4	7.8 46.5	5.8 37.7	7.0 37.7
お ふ ろ を い や が る	度々 時々	2.1 4.1	0.6 5.0	1.5 10.2	0.6 13.2	0.5 12.1
新 しい 場 に な れ に く い	度々 時々	3.1 18.6	11.2 28.0	9.3 31.2	8.0 32.2	7.9 29.3
友 だ ち と 遊 べ な い	度々 時々		1.9 3.7	2.9 11.2	1.2 12.0	1.9 12.6

第 15 表 非常に心配される行動

心 配 内 容	頻 度	0 才	1 才	2 才	3 才	4 才
指 を し ゃ お る	非常に心配	5.2	4.3	8.3	5.8	4.7
食 欲 不 振	〃	1.0	4.3	5.4	5.2	6.5
偏 食 が あ る	〃	1.0	5.0	4.4	4.6	8.4
かんしゃくをおこしやすい	〃	3.1	0.6	6.3	6.3	5.1
わ が ま ま	〃		3.7	6.8	8.6	6.5
強 情 を は る	〃		1.2	6.3	7.5	4.2
い う こ と を き か な い	〃		2.5	3.4	6.3	4.7
内 弁 慶	〃	1.0	1.2	3.9	4.0	4.2
引 込 思 案	〃	1.0		3.4	3.5	3.7
夜 尿 が あ る	〃	1.0	1.2	4.4	4.0	4.2
遊 び な が ら 食 べ る	〃		3.1	2.4	3.5	3.7

第 16 表 性差のみられる問題行動の出現率

問 題 行 動	0 才		1 才		2 才		3 才		4 才	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
いたずらが激しい			29.8 $x^2=7.616$ $P<.01$	11.9	15.2 $x^2=8.616$ $P<.01$	2.8	16.9 $x^2=10.310$ $P<.01$	3.5	11.5 $x^2=4.792$ $P<.05$	3.6
睡眠が不規則					9.1 $x^2=5.534$ $P<.02$	0.9				
遊びながら食べる			18.1 $x^2=2.886$ $P<.10$	11.9						
食事を一人でしない			38.3 $x^2=2.509$ $P<.20$	25.4	13.1					
不規則に間食する			11.7							
やりっぱなしで 片づけができない	4.4		13.8 $x^2=1.717$ $P<.20$	6.0	11.1	10.4	19.1	18.8	14.4 $x^2=3.174$ $P<.10$	7.2
おちつきがない			10.6 $x^2=3.755$ $P<.10$	1.5	6.1	2.8	14.6	8.2	10.6	7.2
床屋をいやがる			35.1 $x^2=2.242$ $P<.20$	22.4						
吃							5.6 $x^2=1.778$ $P<.20$	1.2		
大きな物音に 驚きやすい	8.9 $x^2=2.154$ $P<.20$	28.8								
人に物を貸せない					4.0 $x^2=2.039$ $P<.20$	11.3				
人みしりする		11.5								

いものとして「食欲不振」「偏食」「排便の問題」「吐きやすい」「病気でないのに発熱したり腹痛を訴える」「わがまま」「嘘をいう」「引込思案」「依頼心が強い」「集団生活での問題」「おちつきがない」「吃音」などがある。

5. 性差の認められる問題行動

問題行動の出現を性別によってみると第16表に示した通りである。各年齢段階を通じて男子の方に多い行動として「いたずらが激しい」「やりっぱなしで片づけができない」「おちつきがない」があり、1才の「遊びながら食べる」「不規則に間食する」「床屋をいやがる」1～2才の「食事を一人でしない」、2才の「睡眠が不規則」3才の「食べる」はいずれも男子に多くみられる問題である。

反対に、女子の方に多く現われる行動は0才の「大きな物音に驚きやすい」「人みしりする」2才の「人に物を貸せない」があるが、男子に比べその種類は少ない。

6. 性差の認められる心配

前にあげたように性差の認められる行動は少なく、したがって性差の認められる心配も少ない。第17表に示したように、女子の方に多く心配されるものに、各年齢段階を通じて「指をしゃぶる」があり、「遊びながら食べる」に対する心配は4才になると明らかな差をみせて女子に多い。

男子の方に多く心配されるものに「おちつきがない」があり、3～4才になると次第に心配される傾向がみら

第17表 性差のみられる心配の出現率

心 配 内 容	0 才		1 才		2 才		3 才		4 才	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
遊びながら食べる			3.2	3.0		4.7	3.4	3.5	1.9	10.8
									$\chi^2=7.342$ $P<.01$	
指をしゃぶる	2.2	7.7	4.3	4.5	4.0	12.3	4.5	7.1	3.8	5.4
					$\chi^2=3.105$ $P<.10$					
おちつきがない			1.1	1.5	2.0	1.9	11.2	7.1	10.6	4.5
									$\chi^2=1.778$ $P<.20$	

れる。

このように、性差のみられる行動は比較的男子に多いが、これが必ずしも心配の対象になっていない。

○排泄について

排便・排尿（昼・夜）について発達の状況を調べたものが第18、19、20表である。「おむつ使用」「時間をみてさせる」「予告する」「一人でする」の項目について、現在の子どもの状況を記入してもらったものであるが、二項目以上にチェックされたものはまだ下の段階にあるとして整理したもので、例えば「おむつ使用」と「時間をみてさせる」の二項目にチェックされた場合は「おむつ使用」の段階に含めてある。

排便についてみると、0才後半より「時間をみてさせる」の働きかけがみられるが、1才前半まではほとんどが「おむつ使用」の段階で、1才後半期では「予告ができるもの」「してしまってから教える」の割合が増加してはいるが、なおおむつを使用しているものが半数におよんでいる。2才前半で大部分が予告できるようになり、排便の自立ができるのは4才前半になっている。

排尿についても、1才後半まではおむつ使用の段階に

ある。時間をみてさせる働きかけは排便の場合よりも遅れ1才後半期から多くなっており、2才以後予告するものの割合が急速に増加し、2才後半期には予告できるものが85%に及び、3才後半期で自立している。

夜間の排尿については、1才後半期まではほとんどのものがおむつを使用しており、2才前半から時間をみてさせるものの割合が増加している。2才後半期には大部分がおむつを使用しておらず、3才前半に予告できるようになっている。

なお、これらの発達の状況に性差があるかを検討したが、排便・排尿ともに予告については女子に、昼間の排尿の自立については男子が、夜間の排尿は女子の方に、いくらか発達が早い傾向がみられるが明らかな差を認めることはできなかった。

また、継続的に保健指導を受けている子どもと、そうでない子ども（保育園の子ども）との間に排泄に関し発達の差があるかどうか調べた結果、0才から2才までの段階では両者の間にほとんど差が認められないが、3才4才段階で保育園側に少数ではあるが排泄のしつけがうまくいかない子どもが残っていた。

第18表 排便について

	0;6~		1;0~		1;6~		2;0~		2;6~		3;0~		3;6~		4;0~		4;6~	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
おむつ使用 時間をみて させる	48	80.0	55	79.8	50	54.4	11	10.9										
してしまっ てから教え る	9	15.0	8	11.6	6	6.5	4	4.0	1	0.9								
予告する	1	1.7	3	4.3	10	10.9	10	9.9	4	3.8	1	1.3	5	5.2	1	0.9		
一人でする	2	3.3	3	4.3	26	28.2	65	64.4	75	72.0	44	57.2	22	22.7	9	7.7	4	4.1
無記入							9	8.9	17	16.4	28	36.4	62	64.0	92	78.6	83	84.7
							2	2.0	7	6.7	4	5.2	8	8.2	13	11.1	11	11.2
計	60		69		92		101		104		77		97		117		98	

第19表 排尿について

	0;6~		1;0~		1;6~		2;0~		2;6~		3;0~		3;6~		4;0~		4;6~	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
おむつ使用 時間をみて させる	55	91.7	60	87.0	55	59.8	11	10.9										
してしまっ てから教え る	2	3.3	5	7.3	15	16.3	11	10.9	4	3.8	1	1.3			3	2.6		
予告する	2	3.3	3	4.3	10	10.9	6	5.9	5	4.8			2	2.1	1	0.9		
一人でする	1	1.7	1	1.4	12	13.0	60	59.4	61	58.6	31	40.3	15	15.5	2	1.7	1	1.0
無記入							9	8.9	27	26.0	41	53.3	71	73.2	97	83.0	85	96.7
							4	4.0	7	6.7	4	5.2	9	9.3	14	12.0	12	12.3
計	60		69		92		101		104		77		97		117		98	

第20表 夜間の排尿について

	0;6~		1;0~		1;6~		2;0~		2;6~		3;0~		3;6~		4;0~		4;6~	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
おむつ使用 時間をみて させる	58	96.6	69	100.0	83	90.3	49	48.6	21	20.2	4	5.2	3	3.1	4	3.4		
教える					5	5.4	21	20.8	31	29.8	12	15.6	15	15.5	13	11.1	8	8.2
一人でする	1	1.7			4	4.4	24	23.7	37	35.5	38	49.4	33	34.0	18	15.4	18	18.4
夜間 排尿なし								5	4.8	16	20.8	23	23.7	56	47.9	53	54.0	
無記入							2	2.0	2	1.9			3	3.1				
	1	1.7					5	4.9	8	7.7	7	9.1	20	20.6	26	22.2	19	19.4
計	60		69		92		101		104		77		97		117		98	

○排便の自立についての比較

基本的習慣の自立について、昭和11年に山下俊郎氏、昭和38年に西本脩氏によって調査されており、両氏による排便の自立は第21表に示したように、排便を知らせる時期は1才、便意の予告ができ昼間のおむつが不要になる時期は1才半、夜間のおむつが不要になる時期は2才半、小便の自立の時期は3才半、大便の自立の時期は4才と一致した結果が得られている。

今回の調査では、2才で便意が予告でき、昼間のおむつが不要になっており、この点については半年の遅れが生じている。夜のおむつ不要、大小便の自立については一致した結果が得られた。

第21表 排便自立の年齢標準比較

年齢	山下氏(昭11)	西本氏(昭38)	今回の調査
0;6			おむつ使用
1;0	排便を知らせる	排便を知らせる	おむつ使用
1;6	便意を予告する 昼のおむつ不要	便意を予告する 昼のおむつ不要	
2;0			便意を予告する 昼のおむつ不要
2;6	夜のおむつ不要	夜のおむつ不要	夜のおむつ不要
3;0			
3;6	小便自立	小便自立	小便自立
4;0	大便自立	大便自立	大便自立

要 約

1) 0才から4才までの子どもの親を困らせる行動に

ついて、その出現状態や心配の程度、消長、性差について調査した。

2) 0才児の問題行動に、「何でも口に入れる」「指をしゃぶる」「ねつぎが悪い」などがあり、それがそのまま心配されている。

3) 1才児になると問題行動の種類が増加してくる。「排泄のしつづきがうまくできない」は行動も多く心配も多い。

4) 2才児では問題行動の種類は広範囲に及び「一人でねない」「よごれを気にする」があり、心配では「指をしゃぶる」「わがまま」などがある。

5) 3才児では「きょうだいげんかが多い」「やりっぱなしで片づけができない」などがあり、心配では「おちつきがない」が最も心配されている。

6) 4才児では問題行動の種類も出現率もやや減少する傾向をみせるが、心配にはあまり変化がなく、行動としては「よごれを気にする」「偏食がある」が多く、最も心配されるのは偏食についてである。

7) 発達に伴って増加する行動に「食欲不振」「偏食」「引込思案」などがある。

8) 「食事を一人でしない」「指をしゃぶる」などは発達にしたがって行動は減少するが心配の割合は増加する。

9) 「食欲不振」「偏食」「排泄」の問題「わがまま」「引込思案」「おちつきがない」などは行動の出現に比較して心配するものの割合が多い。

10) 排泄の問題について発達状況を調べた結果を、山下・西本両氏の調査と比較すると、便意の予告・昼間のおむつ不要の時期に半年の遅れがみられたが他については一致をみた。

Research into the Problem Behaviors of Children

Dept. 5 Takeko Mochizuki
Akiko Maruo

1) Research was made into the problem behaviors of children ranging in age from under 1 year to 4 years old. The appearance, disappearance and protraction of problem behaviors, the degree of mothers' anxiety, and difference in sex were investigated.

2) Among the problem behaviors of children under 1 year old, such behaviors as putting anything into mouth, thumb sucking, wakefulness are seen, and they are all worried by mothers.

3) The number of the kind of problem behavior increases as the children reach 1 year old. Failure in toilet training appears most and worries mothers most.

4) The kind of problem behaviors of the 2 year olds covers a wide range. Such problem behaviors as not being able to sleep alone and being nervous about dirt are seen. Thumb sucking and waywardness trouble the parents.

5) The three year old children show such problem behaviors as quarreling between brothers, leaving anything in disorder. The problems of uneasiness, over-activity worry the mothers most.

6) Though the tendency of decrease in the kind and appearance of problem behaviors is shown among the 4 year old children, such problems as being nervous about dirt, partiality for food are remarkable. Parents are anxious about the problem of partiality for food most, showing no change in anxiety compared with the mothers of the children under 4 years old.

7) With the children's development, such problem behaviors as poor appetite, partiality for food and withdrawal increase.

8) The behavior of not eating by himself alone and thumb sucking decrease with the development, on the contrary, the rate of anxiety on the part of mothers increase.

9) Comparing with the rate of appearance of behaviors-poor appetite, partiality for food, discharge problem, waywardness, withdrawal, uneasiness etc., the ratio of mothers who are anxious about them is larger.

10) Comparing the results of our research into the developmental state of toilet training problem with those of Yamashita and Nishimoto, the agreement was found in all the findings except in the time of notifying a motion of the bowels and using no diaper in the day-time.